

テーマ 「英語科における豊かな学びの創造 ～CALLとAuthentic Material の活用 PART1～」

1 テーマ設定の理由

(1) はじめに

学力論議がかまびすしい。「教育の振り子論」的な観点から言えば、「知識・技能」重視に大きく傾いていた振り子の針が、「総合的な学習の時間」の創設や「教育内容の3割削減」によって「経験」重視の方向に戻されつつあったものが、「分数のできない大学生」の論に端を発した学力低下論争に再び押し戻され、また「知識・技能」重視の方向に向かいつつある、というのが現状であるような気がする。「問題解決能力」や「課題発見能力」と言ったような、いわゆる目に見えない学力では結局は高校や大学の入試には対応できないではないのか、やはり中学校・高校の時代は知識や技能を徹底して教え込むことこそが最も重要なのだ、という発想が再び大きな力を持ち始めているような気配を感じる。知識・技能だけではなく、思考力、判断力、問題解決能力等の目に見えない学力を獲得させることこそが教育の主たる目的であるとする派と、知識・技能を教え込むことこそが大事なのであり、一昔前の受験競争の時代に戻るべきだ、と主張する派とがせめぎ合っている、というのが現在の学力問題の置かれている状況なのではないだろうか。

ことの是非はともかく、日本の子供たちの学力の高さが「受験競争」によって支えられてきたということは厳然たる事実である。よい高校、よい大学に入り、よい企業に就職するというのが幸せをつかむための確かな方程式である時代が長らく続いてきた。しかし、その方程式は確実に崩壊しつつある。多くの企業の終身雇用制の廃止、能力主義の導入、採用に当たっての学歴不問等、もはやよい会社に入ることがバラ色の未来を保証するものではなくなってきている。若者たちの就職に対する意識も、一昔前の「安定」から「やりがい」へと変わり、自分の可能性を伸ばすためには転職もいとわない、という風潮が当たり前になりつつある。

「受験競争」が子供たちの学習のもっとも大きな動機付けになるような時代は終わろうとしている。「試験に出るから…」「よい高校（大学）に行くため…」というような外的な動機付けだけではもはや子供たちの学習意欲を高めることは期待できないのである。PISAやTIMSSといった国際学力調査の結果では、日本の子供たちの学力、特に基礎的な学力はそれほど低下してはおらず、むしろ問題なのは学力の低下ではなく、「学習意欲の低下」であるという結果が報告されている。この事実を私たち教師は真摯に受け止める必要がある。

今こそ、私たちは、子供たちが本当に「学びたい」と思うような授業内容、授業方法を創造する必要がある。そうでなければ、「受験競争」の名残で、何とかその地位の高さを保っている日本の子供たちの学力は、今後急激に低下していくであろうことは想像に難くない。

学力の振り子の両端にある「知識・技能」と「経験」のどちらが大事か、などという論議は不毛である。どちらも大事なのである。それも出来るだけ低学年のうちから、両方の能力を伸ばせるような教育を行っていく必要がある。英語科でいえば、「語彙や文法等の能力」と「コミュニケーションのための英語運用能力」のどちらが大事か、ということになるだろう。どちらも大事なのである。

(2) 英語科における「豊かな学び」とは

① 内容論から

本年度、本校では、「豊かな学び」を「個性を拓く学び」「社会につなぐ学び」「世界と結ぶ学び」という3つの視点で構成しようと考えた。英語科においてはそれは、

【個性を拓く学び】

基礎的な英語の語彙や文法を習得し、その土台の上に英語を使って自分の意見や主張を主体的に

述べる事が出来る基礎的な力を培う学び

【社会につなぐ学び】

地域社会の一員、あるいは日本人としての共通の規範意識を身につけ、自分の生まれた町や自国の文化について理解を深め、誇りを持ち、英語を使って自分の意見や主張を発信していけるようになるための基礎的な知識・技能・資質等を培う学び

【世界と結ぶ学び】

日本人としての強い自覚を持って、国際社会で他国の人たちと協調しながらも、堂々と自分の意見や主張を述べられるようになるための基礎的な知識・技能・資質等を培う学び

ということになる。英語がコミュニケーションの道具として「社会につなぎ」「世界と結ぶ」ために役立つようなものになるためには、英語が世界の人々とのコミュニケーションのツールとして本当に役立つものであることを実感できるような学習内容を工夫することが重要である。

② 方法論から－「基礎・基本」と「応用・実践」

英語学習における究極の目標は「英語による実践的コミュニケーション能力」の獲得である。それは時代や社会状況の変化により多少の表現の差はあれ、いつの時代にも変わらぬ目標となってきた。ただそこに至るまでのアプローチの方法が時代や社会状況の変化により様々な変遷を遂げてきた。ある時は徹底して語彙や文法を教え込めば、それが実際のコミュニケーション場面に遭遇すればコミュニケーションの力に変わるのだ、ということが信じられていた。いわゆる文法訳読式授業全盛の時代である。またその反動として現れたのが、語彙や文法はあまり重要ではなく、とにかく英語を使って会話的な活動さを行わせていけば自然とコミュニケーション能力が身に付くのだ、ということが信じられ、授業の大半をコミュニケーション活動ばかりに割いていた時代。現在は「語彙・文法の能力」と「コミュニケーションのための英語運用能力」、その両方のバランスのとれた授業を行うことが大事だという考え方が主流となりつつある。

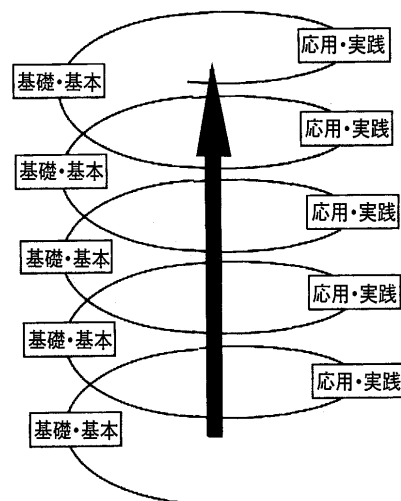
「語彙・文法の能力」とはつまり「基礎・基本」の学習であり、「コミュニケーションのための英語運用能力」とはつまり「応用・実践」の学習である。本校の研究主題から言えば、それは前者が「習得サイクル」、後者が「探究サイクル」による学習ということになる。その2つの学習の関連をどのように捉えるべきなのか。

頭の柔らかい中学生時代には徹底して基礎・基本をたたき込み、さらに上級の学校で応用・実践を行っていく方が効率的だという考え方もある。英語によるコミュニケーション能力を身につけるには、その下位能力となる語彙や文法の力を身につけることは必須であり、そのためのパターン練習やドリル学習は避けて通れない。しかし、繰り返し学習はおもしろくなく、すぐに飽きてしまい、何のための基礎練習かが分からないままでは、結局のところほとんど何も身に付かず終わってしまい、かえって非効率的な学習方法であると言わざるを得ない。

つまり基礎・基本は基礎・基本の練習だけを行っていったら身に付くというものではないのである。大工仕事に例えれば、ノコギリや釘打ちの技術だけを繰り返し練習していても、家を建てられるようにはならない。その技術を使って実際に家を建てる仕事をしてこそ、初めてその基礎技術の意味が分かり、真に生きて働くものとなり、実際に使えるものとなる。また実際に家を建てることにより、さらに基礎的な技術を向上させるための課題が見え、意欲的にその技術を磨こうとする姿勢が培われるのである。

従って、基礎・基本の上に応用・実践が乗っかっているという考え方ではなく、基礎・基本を元に応用・実践があり、その応用・実践を通じて、また基礎・基本の向上に戻っていく、というようなスパイラル的な手順（次頁右図）で学習が成り立っていくという考え方こそが重要なのであろう。母語で言えば、幼い子供は、母親や周りの人たちの話す言葉を聞いて覚え、それをその子なりに実際に使っ

てみようとする。そして実際に使うことによって、その言語はその子の内部に内面化され、コミュニケーションの道具として役立つものとなるのである。覚える→使う→修正する→使う→覚える→使う→修正する→使う→覚える…という繰り返しによって、言語能力は次第に向上していくのである。



③ 学習場面から―必修教科・選択教科・総合的な学習の時間

豊かな学びを実現し、確かな学力を身につけさせるには、「必修教科」「選択教科」「総合的な学習の時間」の3つの学習場面において、それぞれの間に有機的な関連を持たせながら学習活動に取り組ませる必要がある。

必修教科の時間では、先ず「基礎・基本」の習得が主たる目的となる。語彙や文法等の十分な反復練習を行わせることを柱に、指導者が「教え込む」ことを主体にした授業構築がなされなければならない。しかしながら単なる反復練習は学習者にとってはつまらなく、すぐに飽きてしまう。つまらない学習はいくら繰り返しても身に付くものではない。このつまらない学習をいかにおもしろく、飽きさせないようなものにしていくかが最大のポイントになってくる。

選択教科の時間では、必修教科の時間に身につけた基礎・基本を補充・深化・発展させるような取り組みがなされなければならない。個々の生徒の興味・関心や学力の実態に応じた、学習者主体の授業構築が必要となる。

総合的な学習の時間においては、実生活に根ざした、より応用的・実践的な学習の取り組みが必要である。必修教科や選択教科の時間で身につけた基礎・基本を土台にして、それを実際のコミュニケーション場面で応用させるような学習場面の設定が教師の主たる仕事となるであろう。そして、実際のコミュニケーションを通じて、学習者が基礎・基本の重要性や必要性を改めて認識し、その学習結果が再び必修教科や選択教科の時間にフィードバックされていく、というような学習の流れを作ることが重要なのである。

④ 「豊かな学び」の実現のために

上記のことから、英語科における「豊かな学び」を整理すると以下ようになる。

- ①英語が世界の人々とのコミュニケーションのツールとして本当に役立つものであることを実感できるような学習内容・方法を工夫すること。
- ②基礎・基本の習得については繰り返しによるパターン練習は避けて通れない。その繰り返し練習を生徒に飽きさせないようなものになるように工夫すること。
- ③新しい語彙や文法を学習したら、それをすぐに使わせるということを常に意識しながら授業を進めること。覚える→使う→修正する→使う→覚える→使う→修正する→使う…というサイクルが大切である。
- ④そのためにはパターン練習を兼ねる形で、様々な疑似コミュニケーション活動を積極的に取り入れることが重要であるが、それに加えて、出来るだけ「本物のコミュニケーション活動」を取り入れる工夫をすること。
- ⑤必修の時間、選択の時間、総合的な学習の時間、それぞれの時間の有機的な関連を意識しながら授業を組み立てること。

2. 本年度の研究について

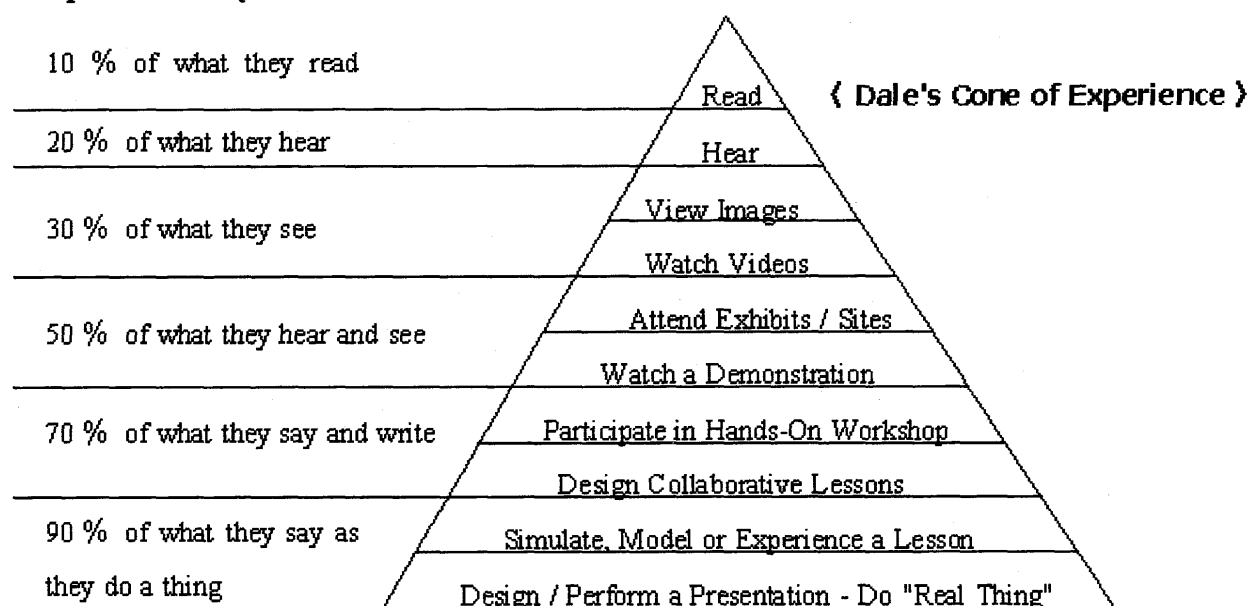
本校の英語科においては、その「豊かな学び」の実現のために、今年度は

①CALL (Computer Assisted Language Learning) の活用 ②Authentic Material の活用の2つに重点的に取り組んでいくことになった。

【CALLの活用】

エドガー・デールは、“Cone of Experience” (下図) で、人間の認知能力というのは、抽象性の高い言語によるよりも、直接的・具体的な経験や体験による方が、その能力が獲得されやすいと論じた。つまり教育というのは、文字や言葉だけではなく、さまざまな体験学習や多様な教材を活用することで、よりその効果が高められる。Cone of Experience を上下しながら、次第に概念や思考が練られ、学習がより豊かになっていくのである。教科書とチョークだけでも授業はできるが、より豊かな学習を可能にするためには、様々な教材や機器を活用することが必要なのである。

People Generally Remember



先に述べたように、基礎・基本を定着させるためには、十分なパターン練習や繰り返しのドリル練習が欠かせないが、そのつまらない練習に楽しく積極的に取り組ませるために、CALLシステムは大きな力を発揮することが期待される。またインターネットを活用することにより、今まで普通教室では実現できなかった本物のコミュニケーション活動にも容易に取り組ませることが可能となった。

本年度は、主に次のようなCALLの活用を行ってきた。

- ①ノートPCとプロジェクターによる授業支援 (必修・選択の時間)
- ②ブラウザベースの英語学習自主教材 (*Hot Potatoes による) の活用 (必修・選択の時間)
- ③ウェブサイト「Quia.com」の利用 (必修の時間)
- ④CAI 機能 (先生機から生徒機への画面転送、文書ファイルの一斉配付と一斉回収、スピーチの一斉録音と一斉回収等) による授業支援 (必修の時間)

【Authentic Materialの活用】

実践的コミュニケーション能力を身につけさせるには、必修教科や選択教科の時間で身につけた「基礎・基本」を元に、多様なコミュニケーション場面を設定して、その中で実際に英語を使う練習

を行わせることが必要である。現在、教室の中で様々なコミュニケーション活動が行われるようになってきており、大きな成果を上げているわけであるが、その多くは厳密には「疑似コミュニケーション」である。インフォメーションギャップ等を利用して、いかにうまくコミュニケーション場を設定したとしても、それは本物にはなりえない。さらに、それ以上の、Authentic Material を用いた本物のコミュニケーション場を設定していくことが、今後の英語教育においては極めて重要になってくると思われる。

今年度、本校では次のような Authentic Material を活用した授業に取り組んできた。

- ①留学生を活用した交流活動…和歌山大学の留学生との校外学習等（総合的な学習）
- ②ALTの積極的な活用…ALT単独の英会話授業等（総合的な学習）
- ③電子メールやホームページを利用した交流活動…オーストラリアやニュージーランドの学生との交流（選択の時間）
- ④普通郵便を利用した交流活動…有名人にファンレターを書く（必修の時間）
- ⑤英語の歌…本物の英語の聞き取り練習（必修の時間）
- ⑥英語劇…英語を使ったパフォーマンス（選択の時間）

〔学習場面一覧〕

場 面	Authentic Material	CALL
必修教科	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンレター（普通郵便） ・英語の歌 ・留学生との交流授業 ・複数のALTとの Team Teaching 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hot Potatoes による自主教材を使った学習 ・Quia Web を利用した学習活動およびテストの実施と成績管理 ・音声ファイル一斉回収機能を利用したリーディング等のテスト ・文書ファイル一斉回収機能を利用したライティング等のテスト
選択教科	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の子供たちとの電子メール交換 ・ホームページ制作を通じた英語学習 ・英語劇 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の子供たちとの電子メール交換 ・ホームページ制作を通じた英語学習
W～ING	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習における留学生との交流 ・ALTのより積極的な活用（英会話の授業） 	

* W～INGとは、本校の総合的な学習の時間の名称

3. 成果と課題

今年度は、「豊かな学び」の実現のために「CALLの活用」と「Authentic Material の活用」の2つに重点を置いた学習の取り組みを行ってきた。以下、具体的な項目別に成果と課題を考察してみる。

(1) CALLの活用について

① ノートPCとプロジェクターによる授業支援（必修・選択の時間）

- ・黒板とチョークに匹敵する可能性を秘めた教具の一つであることが再確認できた。両者をうまく併用した授業展開をさらに追究していく必要がある。
- ・CALL教室だけではなく、すべての普通教室でノートPCとプロジェクターが使用できるような環境作りに学校あげて取り組んでいく必要がある。

② ブラウザベースの英語学習自主教材（*Hot Potatoes による）の活用（必修・選択の時間）

- ・単調になりがちな文法や語彙の繰り返し学習に、生徒をより意欲的に取り組ませるのに大きな効果を見ることができた。
- ・Hot Potatoes は慣れればだれでも扱えるソフトウェアであるが、今のところすべての英語教員が

使えるようにはなっていない。イントラネットの基礎知識とともに今後研修を行っていく必要がある。

③ ウェブサイト「Quia.com」の利用（必修の時間）

- ・指導者の労力の軽減に大いに役立った。
- ・テスト内容については、単語だけではなく、さらに様々な内容が工夫できるように思う。今後の研究が必要である。

④ CAI 機能による授業支援（必修の時間）

- ・画面転送機能については、プロジェクターでは見えないような文字や画像を生徒に見せたいときにとっても役に立った。印刷物では配布にかかる時間がこの機能により大幅に削減できる。
- ・文書ファイルの回収機能については、印刷物の方が便利であると感じた。何か別の活用方法が望まれる。
- ・スピーチやリーディングの音声ファイル回収機能は、テスト実施にかかる時間を大幅に短縮できた。ただ、面接によるテストではないので、現在のところ、スピーキング能力の評価には使えそうにないと感じている。より効果的な使用方法の研究開発が望まれる。

(2) Authentic Material の活用について

① 留学生を活用した交流活動…和歌山大学の留学生との校外学習等（総合的な学習）

- ・様々な国籍の人たちと行動をともにすることによる異文化理解を効果的に行うことができた。
- ・英語圏の人たちだけではないので、英語が世界の人たちとのコミュニケーションの道具であることを再確認させることができた。
- ・留学生への指導が徹底できなかったために、留学生が伝わりやすい日本語を用いてコミュニケーションしてしまい、日本語でコミュニケーションを行ってしまったグループがあった。
- ・初年度ということで交流センターを通しての事務手続きに労力を要したが、日程を組み替えれば留学生や交流センターなどの大学側にも意義ある活動であった。（大学側は留学生に日本文化を体験させるような活動を積極的に取り入れている。）

② A L T の積極的な活用…A L T 単独の英会話授業等（総合的な学習）

- ・子どもたちは興味を持って学習に取り組んでいる。
- ・学習内容について、J T E との打ち合わせをもう少し念入りに行っていく必要を感じている。

③ 電子メールやホームページを利用した交流活動…オーストラリアやニュージーランドの学生との交流

（選択の時間）

- ・Authentic Material の学習効果を大いに感じることができた。今後もさらに発展させていきたい。必修教科での実施が今後の最大の課題となろう。

④ 普通郵便を利用した交流活動…有名人にファンレターを書く（必修の時間）

- ・およそ8割強の返信があり、海外の有名人からのサイン入り写真を手に入れることができ、書くことへの意欲を高めることにつながった。「次は〇〇に書きたい。」「お礼の手紙を書きたい。」など意欲的な意見が多く出ている。
- ・生徒全員が興味を持っている有名人は前回で約80人いたが、炭疽菌騒動以来、有名人へのファンレターチェックが厳しくなり、宛先を調べるのに大変な労力を費やさなければならなかった。また一度調べたからといって、次回も同じアドレスで届くとは限らず、その都度調べなければならないという面倒が伴う。

⑤ 英語の歌…本物の英語の聞き取り練習（必修の時間）

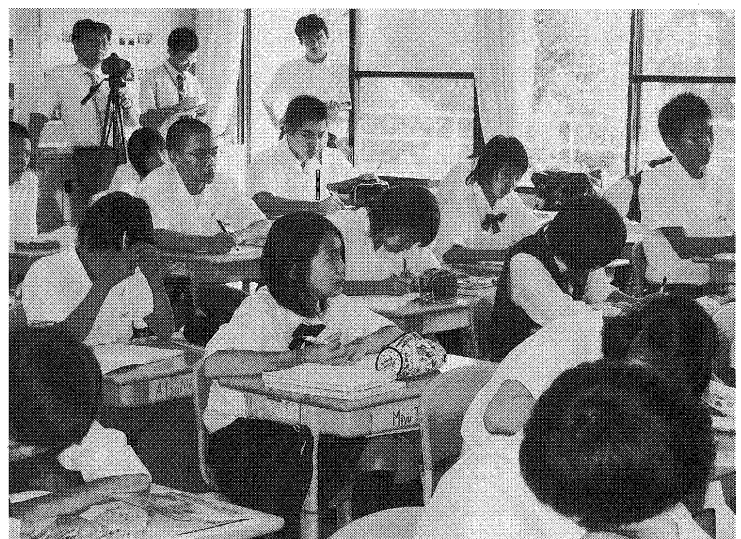
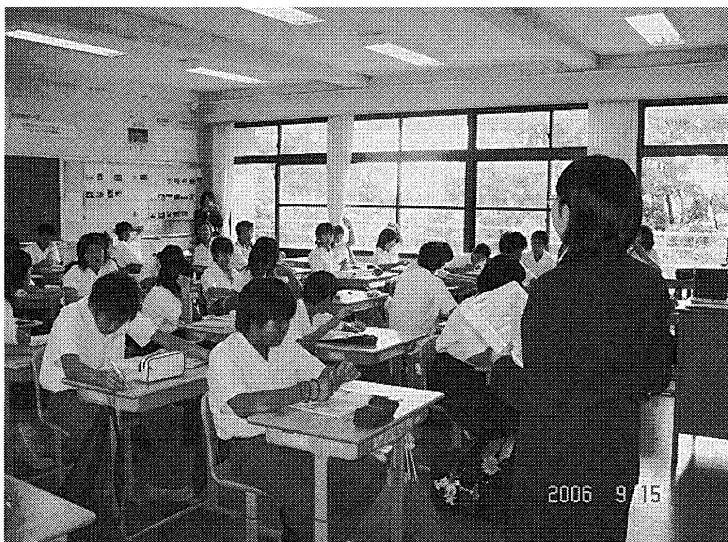
- ・英語の歌を聞くことがリスニング能力の向上にいかほどの効果があるのかは実証的には検証できていないが、経験的には生徒のリスニング能力が向上していることを強く感じている。何よりも、生徒たちが「聞かされる」のではなく「自ら聞く」、「聞きたい」という活動になっていることが、この

活動の最大のメリットである。

⑥ 英語劇…英語を使ったパフォーマンス（選択の時間）

- ・役になりきってセリフを表現するように工夫する生徒を多く見ることができた。発音の仕方だけではなく、声を大きくして言ってみたり、動作を大げさにしてみたりすることで話を理解してもらおうとする様子を伺うことができた。
- ・10時間単位の中での取り組みのため、多くの時間を練習に費やすことができず、また、10時間を確保できない場合もあるために、セリフを覚えきれない生徒もいた。

繰り返し述べるが、現在の教育の最大の危機は子どもたちの「学力の低下」ではなく、「学習意欲の低下」である。むやみに授業時間数を増加させたり、強制的な反復練習を増やしたりするだけの付け焼き刃的な対処で克服できるような代物ではない。それぞれの学習内容が持つ本来の楽しさや有用性を実感させられるような、より実生活に根ざした学習活動を展開するとともに、それらの実践的な学習の基礎を身につけさせるための反復練習を、より効果的、効率的に行わせるようにするためのより良い方策を、今年度の取り組みの成果と課題を糧に、今後もさらに追究していきたいと思う。



実践1 選択教科2・3年生

① 題材 「英語を使って、世界に情報を発信しよう！」

② 題材について

Authentic Material の一つとして電子メールによる情報交換とホームページを利用した情報発信を取り上げる。電子メールは今や日常のコミュニケーションの手段として確固とした地位を確立しつつある情報伝達方法の一つである。英語教育においては、昨今は特に音声によるコミュニケーションに重点が置かれるようになってきているが、日本における英語を用いた日常のコミュニケーションを見ると、ビジネス場面においても、プライベートな場面においても、文字を媒体とした電子メールによるコミュニケーションの方が、むしろ頻繁に利用される傾向がある。また、学校での英語教育においては、音声を用いた本物のコミュニケーション場面を設定することは難しいが、電子メールによるコミュニケーションの場面設定は比較的容易に行えるという利点がある。

今回の授業では、ePALS Classroom Exchange (<http://www.epals.com/community/>)というインターネット上のサイトを利用した電子メール交換に取り組んだ。このサイトは学級単位で電子メールによる交流を行うための各種サービスを提供しているサイトであり、35人までは、無料で生徒用メールアドレスを発行してもらえらる仕組みになっている。また、生徒が送受信したメールは、いったん指導者のメールボックスに保存され、指導者が承認を行わないかぎり、そのメールを相手に届けたり読んだりできないようになっており、不適切な表現等でトラブルが発生することを事前に防ぐことができる。これは指導者にとっては極めてありがたいシステムである。

相手校は、オーストラリアのシドニーにある Strathfield Girls High School（以後 SGHS と表記する）という女子校にお願いした。9年生日本語クラスの22名と英語、日本語両方によるメール交換を行う。メールを読んだり書いたりすることによって英語を読む力や書く力を伸ばすことはもちろんのことであるが、外国人が書く日本語を読むことによって、日本語という言語の持つ特徴に気づき、自国の文化を再発見するきっかけとしたい。

また、電子メールのファイル添付機能を利用し、デジタルカメラで撮影した自己紹介のビデオクリップを送り届けるという取り組みも行いたい。リアルタイムのテレビ会議システムを利用したコミュニケーションがもっともインパクトがあり、英語学習の動機付けには最適かもしれないが、設備や相手校とのスケジュールの調整等の問題もあり、未だ実践する段階には至っていない。

ホームページ制作については、SGHS の生徒たちに読んでもらうことを前提にして、身近な題材、例えば「附属中学校」、「和歌山市」、「関西国際空港」、等を簡単な英語で紹介するような内容のページを制作させる。できるだけ自分たちが使える範囲の英語で無理のない作業を行わせるようにしたい。また、ほとんどの生徒たちにとってはホームページ作りは初めての経験であるので、本格的なホームページ制作用のソフトウェアは使用せず、マイクロソフト社のパワーポイントを使い、ファイルをhtml形式で保存させることによる簡便な方法で制作させたいと考えている。公開した作品については掲示板を設置して、SGHSの生徒たちに感想を書いてもらう予定である。

日本の子供たちの英語によるコミュニケーション能力は確実に伸びてきていると考える。英語を使って積極的に外国の人たちと関わり、自分の考えを発信しようとする意欲や態度は、一昔前とは比べものにならないくらいに大きく前進してきていると思う。しかしながら諸外国の子ども達に比較すればまだまだ満足のいくものではないだろう。今回の取り組みは本校の研究主題の中の「探究サイクル」を強く意識したものである。取り組みを通じて、生徒個々の「読む」「書く」を主とした基礎的な英語力を伸ばすことはもちろんではあるが、それ以上に、外国の人たちとも臆することなく積極的に交流をしようとする意欲や態度をさらに大きく成長させられることを強く願う。それこそが、我々が目指す「個性を拓き」「社会につながり」「世界と結ぶ」学びになると考えるからである。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標 評価規準	①オーストラリアの学生たちの生活に興味を持ち、意欲的に相手の情報を知り、またこちらの情報を発信しようとしている。 ②電子メールの交換やホームページ制作において、相手からの情報を正確に理解し、また自分の言いたいことを適切な英語を用いて表現することができる。		
	①コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力
読むこと	〈言語活動への取り組み〉 ・オーストラリアの生徒たちからの電子メールやホームページの感想文に興味を持って読もうとしている (ア)	〈正確な音読〉 ・正確な発音・イントネーションで自己紹介をすることができる (ウ)	〈正確な読み取り〉 ・オーストラリアの生徒たちからの電子メールを読み、その内容が理解できる (カ)
	〈コミュニケーションの継続〉	〈適切な音読〉	〈適切な読み取り〉
書くこと	〈言語活動への取り組み〉 ・電子メールを書くことやホームページの制作によって、オーストラリアの生徒たちに、自分や自分の身近な事物について、意欲的に情報を伝えようとしている (イ)	〈正確な筆記〉 ・正しい語い・文法を用いて正確な英文を書くことができる (エ)	
	〈コミュニケーションの継続〉	〈適切な筆記〉 ・相手の電子メールを読み、それに適切に応答することができる (オ)	

* (ア) (ウ) (カ) については形成的な評価にとどめる。(イ) (エ) (オ) については、総括的評価の資料とする

④ 学習計画（単元構成表） * 本時は【第1部】③の2時間目

【第1部】電子メール交換（全5時間）

学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	評価規準
①メール交換の方法（1時間）	・SGHSについて知る ・epals.com へのログインの方法を学ぶ ・アドレス帳への登録方法を学ぶ ・メールの書き方、送信の仕方を学ぶ	・SGHSのホームページを見せながら相手校についての説明をする ・epals.com へのログインの方法について説明する ・メール交換相手の情報を与え、アドレス帳に情報を登録させる ・メールの書き方や送信の仕方を説明し、実際に簡単な英語を使って友達同士でメールの交換をさせる [習得]	
②ビデオメールの作成（1時間）	・自己紹介の英文を作成し、それをビデオクリップとして録画し、送信する	・デジタルカメラの撮影機能を利用して、自己紹介用のビデオクリップを撮影する ・撮影した映像ファイルを添付ファイルとして相手校の担当教諭に送信する [習得]	ウ
③メールを読む・書く（3時間）	・それぞれの相手から送られてきた電子メールを読んで理解する ・それぞれのメールに対して返事を電子メールで作成し送付する	・メールに書かれてある内容を正しく理解し、適切に応答するようにさせる ・書かれてある内容に応答するだけでなく、自分自身でも書く内容を考えさせ、コミュニケーションが豊かになるように促す ・英和/和英辞書を有効に利用させる ・必要に応じて「Eメール文例集」を活用させる [習得] [探究]	アイエオカ

【第2部】ホームページ制作（全4時間）

学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	評価規準
①テーマ決定と原稿作成（1時間）	・ホームページのテーマを決定し、原稿を作成する	・ホームページのサンプルを見せ、イメージをつかませる ・グループに分かれて、何をテーマとして発信するのかを話し合わせ、テーマを決定させる ・テーマに応じたホームページの下書きを作成させる〔探究〕	イ
②ホームページの作成とアップロード（2時間）	・ホームページを作成しインターネット上にアップロードする	・パワーポイントを使ってホームページの作成を行わせる ・ネット上の画像利用についての著作権に配慮させる ・難しい表現を使うのではなく、できるだけ現在知っている表現を用いて英文を書くように促す〔探究〕	エ
③感想の読み合わせと総括（1時間）	・SGHSの生徒の感想文を全員で読み合わせ、総括を行う	・ホームページ上に掲示板を設け、SGHSの生徒たちに作品についての感想を書いてもらう ・感想を読ませ、自分たちの作品についての総括を行わせる〔習得〕〔探究〕	ア

⑤ 本時の目標（評価規準）

学習の目標 評価規準		・SGHSの生徒からの電子メールを読み、適切な英文を用いて返事を書くことができる		
	①コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	
読むこと	〈言語活動への取り組み〉 ・オーストラリアの生徒たちからの電子メールに興味を持って読もうとしている (ア)	〈正確な音読〉	〈正確な読み取り〉 ・オーストラリアの生徒たちからの電子メールを読み、その内容が理解できる (オ)	
	〈コミュニケーションの継続〉	〈適切な音読〉	〈適切な読み取り〉	
書くこと	〈言語活動への取り組み〉 ・電子メールを通じて自分や自分の身近な事物について意欲的に情報を伝えようとしている (イ)	〈正確な筆記〉 ・正しい語い・文法を用いて正確な英文を書くことができる (ウ)		
	〈コミュニケーションの継続〉	〈適切な筆記〉 ・相手の電子メールを読み、それに適切に応答することができる (エ)		

* (ア) (オ) については形成的な評価にとどめる。(イ) (ウ) (エ) については、総括的評価の資料とする

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
①epals.com へのログイン P Cを立ち上げ、ユーザー名とパスワードを入力して epals.com にログインする	・ P Cの立ち上げは教師が行う	
②メールのチェック SGHS からのメールをチェックする	・ メールが来ていない生徒については、すぐに相手生徒へのメールを書くように指示する	
③メールを読む メールを読んで内容を理解する	・ 辞書を活用するように促す ・ 英語が苦手な生徒には「Eメール文例集」も活用させる	・ 英和和英辞書 ・ Eメール文例集 ・ 評価規準 (ア) (イ)
④返事を書き、送信する メールに対する返事を書いて送信する	・ 辞書や文例集を活用するように促す ・ 早く送信できた者については、ホームページ制作の続きを行わせる	・ 翻訳ソフトについては単語レベルでの使用にとどめさせる ・ 評価規準 (イ) (ウ) (エ)
⑤次時の学習内容を知る	・ 次時の学習内容について必要事項を連絡する	
⑥P Cを終了する	・ P Cの終了は教師が行う	

⑦ 成果と課題

今回の取り組みでは、2年生と3年生の合同クラスでの授業を行ったが、驚いたことに、生徒たちが書いた英文を見ると、それが2年生が書いたものなのか3年生が書いたものなのかの区別がほとんどできなかった。それは、たまたま2年生の生徒たちのレベルが高かったのかもしれないということもあるが、それ以上に、「書きたい!」という意欲があれば、2年生でも3年生と同等レベルの英文が書けるということをも物語っている。Authentic Materialの効果をまざまざと見せつけられた思いであった。

生徒たちが書く英文には、ほとんど難しい構文などは使われていない。後置修飾や関係代名詞などといった高度な文法を使わなくとも、単文だけでも、語彙さえ分かれば十分なコミュニケーションが可能なのだということを強く感じさせられた。現にオーストラリアやニュージーランドの子どもたちが書く英文にも関係代名詞などが使われていることはごく希であり、それで十分なコミュニケーションが成立しているのである。2年生中盤ごろから、どんどん既習の語彙や文法を用いて、積極的に実際のコミュニケーションをさせることが極めて効果的であることを再認識した。

実質9時間の取り組みであったが、メールとホームページの両方に取り組ませることは少し無理があった。結果的にはホームページ作りが中途半端に終わってしまったことが残念である。メール交換の取り組みに限定した方がより大きな学習効果が望めたかも知れない。計画には余裕を持たせることが重要である。

今度の新しい学習指導要領では、「選択教科」の時間が縮小されるかも知れない、ということが囁かれている。必修教科の時間に今回のような取り組みを導入したいという希望はあるのだが、現在のように一度に40人の生徒を相手にしなければならないとすれば、かなり実現は難しいだろうと思われる。実現に向けての今後の研究が課題である。

【資料】

1. Strathfield Girls High School からのメール

送信者: ***** <*****@epals.com>

宛先: *****@epals.com

年月日: 2006 年 10 月 22 日 10:13:28

件名: Hi! From Australia.

こんにちわ。わたしの なまえは ***** です。私は 14 さい です。私は 女 です。私は シドニー すんで
います。私は ちょっと せがひくい です ><。まだ 150cm です。私の たんじょうびは 4
月 13 日 です。私は 中学校 3 年生 です。私は おんがくを きくのが 大好き です。私も 1 番 好きな 歌手
は いたうゆな です！そして、Endless Story が大好きです！Nana「ナナ」を見てですか。でも、うただ・ひ
かる と Round Table とゆい も好きです。

私たちの 学校は ストラスフィールド 高校です。えい語で Strathfield Girls High School です。学生は
1100 人です。先生は 90 人です。また Eメールを 送ります。ごめなさい、わたしは おくり をおそ
い です。じゃあね~ さようなら。

Hello. My name is **** *. I'm 14 years old. I'm female. I live in Sydney. I am kind of
short ><. I am still 150cm. My birthday is April 13. I am a 3rd grade junior high school
student. I love to listen to music. My favorite singer is Yuna Itou too! I love the song
Endless Story. Have you watched "Nana"? But I also like Utada Hikaru, Round Table and
Yui.

Our School is Strathfield Girls High School. In english it is Strathfield Girls High School.
There are 1100 students, and 90 teachers. I will send you an email again. I'm sorry I sent
you this email late. Talk to u later. Bye.

2. 附属中学校の生徒が書いたメール

送信者: ***** <*****@epals.com>

宛先: *****@epals.com

年月日: 2006 年 10 月 05 日 11:36:01

件名: Hello From Japan

添付ファイル: *****.jpg

Hello. My name is *****.

I am 13years old.

I have the pleasure of writing to you for the first time.

I live in Wakayama.

My favorite sport is basketball.

I am looking forward to your reply.

bye.

送信者: ***** <*****@epals.com>

宛先: *****

年月日: 2006 年 10 月 05 日 11:47:15

件名: Nice to meet you!

添付ファイル: *****.jpg

Hello!

I have the pleasure of writing to you for the first time.

Today I think I am going to tell you something about myself.

My name is Natsuki Nishioka.

I am 15 years old girl.

My birth day is June 28.

I was born in Wakayama City of Japan.

I am about 165 centimeters tall.

I live in Kuinose in Wakayama City with my family.

My hobby is playing the guitar and singing.

It is lots of fun for me.

I like reading books,net surfing,talking with my friends and teacher,watching baseball games,and listening to music.

I cannot swim well.

I don't like peying sports so.

My favolite singer is Gackt Camui.

I like him very much!!!

His voice is so nice!!!

I would be very happy to hear from you.

3. 授業で活用しているウェブサイトのアドレス

[Hot Potatoes] <http://hotpot.uvic.ca/>

[quia.com] <http://www.quia.com/web>

[ePALS.com] <http://www.epals.com/community/>

[授業で使用しているCALL教材] (GRAMMAR 教材のみ公開しています)

<http://www.ajhs.wakayama-u.ac.jp/subject/English/ComputerMaterials/NewHorizonMaterials2006/TopPage2006/top.htm>

4. メール交換をした子どもたち

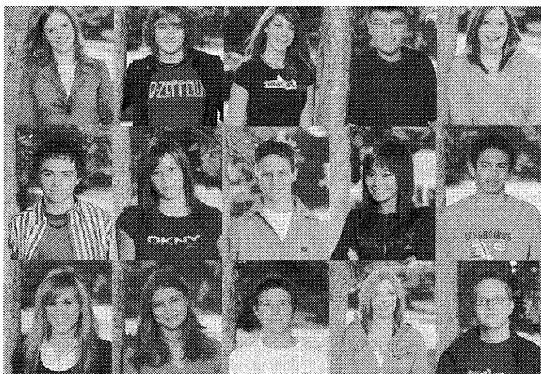
Tamaki Primary School
(Auckland, New Zealand)



Strathfield Girls High School
(Sydney, Australia)



Bellerose Composite High School
(Alberta, Canada)



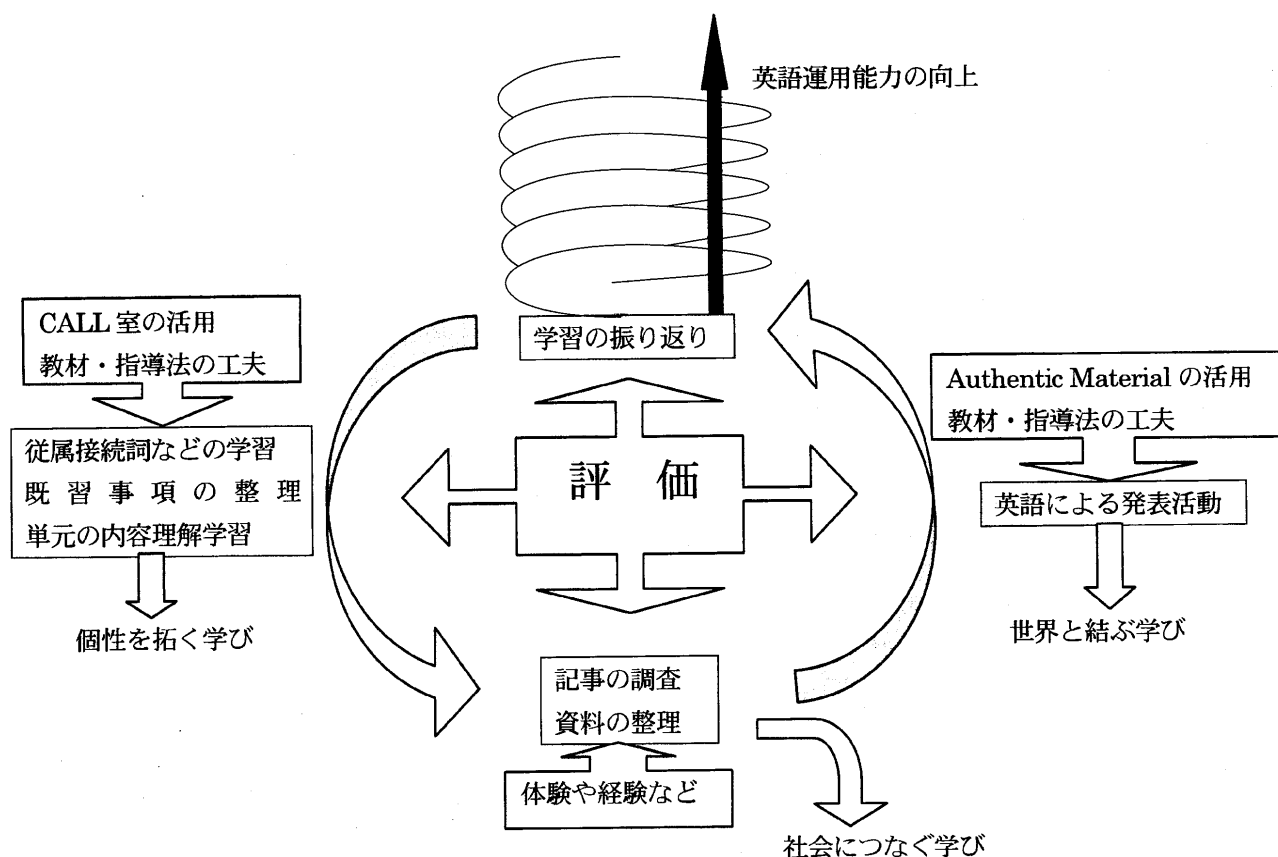
実践2 必修教科2年生

① 題 材 Writing an article ～ 記事を書いて発表しよう！ ～

② 題材について

Unit 5 ではある女の子が乱雑に自転車の置かれた駐輪場で自転車が倒れてきたことによってけがをし、その事故を受けて公園をつぶして駐輪場にするか、公園を存続させるかの議論が採りあげられ、「事実を伝える」「意見を述べる」という場面設定が行われている。また、言語材料としてはif 節、that 節、when 節、because 節などを順に扱い、これまで単文や重文で表現してきた表現方法からより複雑な構造を成す複文を用いた表現が可能になる。単文や重文で伝えるよりもより論理的に様々なことを伝えることができるのである。そこで、Unit 5 のOption 課題で発展的内容としてとりあげられている「学校や地域での最近の出来事について書く」という本題材を通して、身近なことをテーマに5 W 1 H の明確な記事を簡潔に書き、発表を聞いて自分の意見や感想を述べたり質問をしたりし、学びの習得サイクルと探究サイクルを相互に、且つ有機的に関連させ、生徒の従属接続詞の運用についての基本的な知識の定着とそれらを用いた表現力を身につけさせることをねらう。つまり、「語彙や文法の習得」を経て「身近な事象などについて調査し、理解を深め」、「それについて英語で意見や主張を発信する」という「豊かな学び」の三つの視点からなる学びを展開し、個を育むのである。またその実現のために本校英語科における今年度の取り組みの重点である学習場面のあり方（①CALL室の活用と ②Authentic Material の活用）の中でも、本題材では ②Authentic Material の活用を生かした本物のコミュニケーション場面（複数の ALT との Team-Teaching）を設定し、「個性を拓く学び」、「社会につなぐ学び」、「世界と結ぶ学び」の視点から実践的コミュニケーション能力の獲得を目指したい。

<本単元における「豊かな学び」の授業構成図>



③ 学習目標と評価規準

(1) 学習目標

- ・従属接続詞の形、意味、用法を理解し、自分の意見や考えを表現することができる。
(表現の能力、言語や文化についての知識・理解)
- ・発表を聞いて、自分の意見や考えを持ち、発表することができる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度、理解の能力、表現の能力)
- ・テキストの Unit 5 に書かれた内容や発表の内容を理解することができる。
(理解の能力、言語や文化についての知識・理解)

(2) 本単元でとり上げる観点別の評価規準

	コミュニケーションの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
聞く こと	(言語活動への取り組み)		(正確な聞き取り)	(言語についての知識)
	「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる		初歩的な英語の情報を正しく聞き取ることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけている。
	(コミュニケーションの継続)		(適切な聞き取り)	(文化についての理解)
話す こと	(言語活動への取り組み)	(正確な発話)		(言語についての知識)
	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			
	(コミュニケーションの継続)	(適切な発話)		(文化についての理解)
	様々な工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	初歩的な英語を用いて、場面や相手に応じて適切に話すことができる。		
読む こと	(言語活動への取り組み)	(正確な音読)	(正確な読み取り)	(言語についての知識)
	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。	初歩的な英語を正しく音読することができる。	初歩的な英語の情報を正しく読み取ることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけている。
	(コミュニケーションの継続)	(適切な音読)	(適切な読み取り)	(文化についての理解)
		初歩的な英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読できる。	初歩的な英語を、目的に応じて適切に読むことができる。	
書く こと	(言語活動への取り組み)	(正確な筆記)		(言語についての知識)
	「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			言語や言語の運用についての基本的な知識を身につけている。
	(コミュニケーションの継続)	(適切な筆記)		(文化についての理解)
		初歩的な英語を用いて、目的に応じて適切に書くことができる。		

(3) 本単元における具体の評価規準

規 準	コミュニケーションの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
聞 く こ と	(言語活動への取り組み)		(正確な聞き取り)	(言語についての知識)
	ア、うなづいたりメモを取 るなど、発表者の話に関 心を持って聞いている。		ア、発表者の話の内容を正 しく聞き取ることができる。	ア、従属接続詞の文の形、 意味、用法についての知 識が身についている。
	(コミュニケーションの継続)		(適切な聞き取り)	(文化についての理解)
話 す こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な発話)		(言語についての知識)
	イ、間違いを恐れず自分の 考えなどを話している。			
	(コミュニケーションの継続)	(適切な発話)		(文化についての理解)
	ウ、聞き手に理解してもら うために別の言葉で言い 換えたり、別の単語を用 いたりするなどの工夫を して、コミュニケーション を続けようとしている。	ア、聞き手にわかりやすく 自分の意見を説明するこ とができる。		
読 む こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な音読)	(正確な読み取り)	(言語についての知識)
	エ、必要に応じて辞書など を活用している。	イ、正しい強勢、イントネー ション、区切り等を用い てテキストや原稿を音読 することができる。	イ、テキストに書かれてい る内容について正しく読 み取ることができる。	イ、テキストの語句の発音 や文の強勢などについて の知識がある。
	(コミュニケーションの継続)	(適切な音読)	(適切な読み取り)	(文化についての理解)
		ウ、事実を伝えたり、意見 を述べたりする場面に応 じた音読ができる。	ウ、テキストに書かれてい る情報について大事な部 分を読み取ることができる。	
書 く こ と	(言語活動への取り組み)	(正確な筆記)		(言語についての知識)
	オ、従属接続詞の文やその 他の習った文や語句を用 いて英文を書こうとして いる。			ウ、従属接続詞の文の形、 意味、用法についての知 識が身についている。
	(コミュニケーションの継続)	(適切な筆記)		(文化についての理解)
		エ、文のつながりや意味上 の構成を考えた文を書く ことができる。		

*①－エ、②－ウ、③－ウ、④－イについては毎時間形成的評価として行い、③－アについては第10時の観察にとどめる。

④ 単元構成表

(1) 学習計画

- 第1時 Starting Out (P.50)
 第2時 Dialog (P.51)
 第3時 Reading for Communication ●記事を書こう (P.52)
 第4時 Reading for Communication ●意見を述べよう (P.53)
 第5時 Reading for Communication ●新聞記事 (P.54)
 第6時 Option 「Writing an article」1 (記事の調査)
 第7時 Option 「Writing an article」2 (記事・資料のまとめ)
 第8時 Option 「Writing an article」3-1 (発表原稿の作成)
 第9時 Option 「Writing an article」3-2 (発表原稿の作成)
 第10時 Option 「Writing an article」4 (発表) <本時>
 第11時 Option 「Writing an article」5 (ふり返りとまとめ)

(2) 学習活動と学びのサイクルについて

次	時	ねらい	学習活動	教師の働きかけと学びのサイクルについて
1	1	○If節の文の形、意味、用法を理解する ○テキストの内容を読み取り、FAXの内容を理解する	・前時の復習 ・テキストの音読と内容理解 (P.50) ・新出単語の学習 ・従属接続詞の文 (if節) の学習	・電話で使われる表現を用いてペアワークに取り組ませる。『探究』 ・音読の繰り返しに飽きないよう工夫する。『習得』 ・大まかな内容を読み取らせる。『習得』『探究』 ・発音や意味を繰り返し確認する。『習得』 ・ポイントを説明し、ワークシートに取り組ませる。『習得』『探究』
2	2	○that節の文の形、意味、用法を理解する ○テキストの内容を読み取る	・if節の復習 ・テキストの音読と内容理解 (P.51) ・新出単語の学習 ・従属接続詞の文 (that節) の学習	・練習問題に取り組ませ、if節の文の構造や意味、用法を復習する。『習得』 ・音読の繰り返しに飽きないよう工夫する。『習得』 ・大まかな内容を読み取らせる。『習得』『探究』 ・発音や意味を繰り返し確認する。『習得』 ・ポイントを説明し、ワークシートに取り組ませる。『習得』『探究』
3	3	○when節の文の形、意味、用法を理解する ○テキストの内容を読み取り、記事の内容を知る	・that節の復習 ・テキストの音読と内容理解 (P.52) ・新出単語の学習 ・従属接続詞の文 (when節) の学習	・練習問題に取り組ませ、that節の文の構造や意味、用法を復習する。『習得』 ・音読の繰り返しに飽きないよう工夫する。『習得』 ・大まかな内容を読み取らせる。『習得』『探究』 ・発音や意味を繰り返し確認する。『習得』 ・ポイントを説明し、ワークシートに取り組ませる。『習得』『探究』
4	4	○because節の文の形、意味、用法を理解する ○テキストの内容を読み取り、ジャッキーの意見を知る	・when節の復習 ・テキストの音読と内容理解 (P.53) ・新出単語の学習 ・従属接続詞の文 (because節) の学習	・練習問題に取り組ませ、that節の文の構造や意味、用法を復習する。『習得』 ・音読の繰り返しに飽きないよう工夫する。『習得』 ・大まかな内容を読み取らせる。『習得』『探究』 ・発音や意味を繰り返し確認する。『習得』 ・ポイントを説明し、ワークシートに取り組ませる。『習得』『探究』
5	5	○5W1Hの文を用いて簡単な記事を書くことができる	・because節の復習	・練習問題に取り組ませ、that節の文の構造や意味、用法を復習する。『習得』

		○Unit 5 の単語や文を聞いて書くことができる	・記事を整理する (P.54) ・単語テスト	・5 W 1 H の文章が順に意味を構成することに気付かせる。『習得』『探究』 ・CD で単語を聞き、聞き取った単語と意味を書く。『習得』
6	6	○身近なことを調査し、意見を整理することができる	・記事の調査	・身近なことに目を配るよう指示する。『探究』
7	7	○わかりやすく資料をまとめ、発表準備をすることができる	・資料の整理・原稿の下書き	・4 W 1 H の構成になるよう発表文の原稿を考えるよう指示する。『探究』 ・文のつながりを考えて下書きをさせる。『探究』
8	8 ・ 9	○習った文や語句を用いて、自分の意見を英語で書くことができる	・原稿の作成 ・原稿の音読練習	・知っている表現方法を用いて書くよう指示する。『探究』 ・ペアで音読練習するよう指示する。『習得』『探究』
9	10	○自分の意見を簡単な英語で発表することができる	・発表	・グループに分かれ、ポスターセッション形式で発表させる。『探究』
10	11	○友達の発表を聞いて、内容を理解することができる	・振り返りとまとめ	・発表のよかったところにもう一度発表させる。 ・どんな点がよかったのか自分の意見を書くよう指示する。『習得』『探究』

(3) 指導と評価の計画 (★は③(3)の評価基準を示す)

次	時	評価場面	単元の評価基準との関連		努力を要すると判断された生徒への手だて	評価方法
			おおむね満足できると判断できる状況 (B)	十分満足できると判断する視点 (A)		
1	1	・テキストの音読と内容理解 (P.50)	★③ーイについて テキストに書かれている内容について正しく読み取ることができる。	★③について 常にテキストに書かれている内容について正しく読み取ることができる。	★③について 個別に質問し、書かれた内容についてヒントを与える。	ワークシートの表を完成させているか観察する。
		・if 節の学習	★①ーイについて 間違いを恐れず、積極的に書こうとしている。	★①について 既習事項を積極的に活用し、辞書などを用いながら常に工夫して書こうとしているか。	★①について 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる。	絵を見て文章を完成させているか確認する。
2	2	・テキストの音読と内容理解 (P.51)	★②ーイについて 単語の強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読する。	★②について 常に正しい単語の強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	★②について 正確な音読でなくとも読もうとする態度を評価し、個別に指導する。	全員音読で、正しく音読されているか確認する。
		・that 節の学習	★④ーウについて 問題に50パーセント以上正解している。	★④について 問題に75パーセント以上正解している。	★④について 個別に指導し勉強会への参加を促す	ワークシートの内容を確認する。
3	3	・テキストの音読と内容理解 (P.52)	★②ーイについて 単語の強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	★②について 常に正しい単語の強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。	★②について 正確な音読でなくとも読もうとする態度を評価し、個別に指導する。	全員音読で、正しく音読されているか確認する。

		・ when 節の学習	★①ーイについて 間違いを恐れず、積極的に書こうとしている。	★①について 既習事項を積極的に活用し、辞書などを用いながら常に工夫して書こうとしているか。	★①について 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる。	ワークシートの内容を確認する。
4	4	・ テキストの音読と内容理解 (P.53)	★③ーイについて テキストに書かれている内容について正しく読み取ることができる。	★③について 常にテキストに書かれている内容について正しく読み取ることができる。	★③について 個別に質問し、書かれた内容についてヒントを与える。	ワークシートの表を完成させているか観察する。
		・ because 節の学習	★①ーオについて 問題に50パーセント以上正解している。	★①について 問題に75パーセント以上正解している。	★①について 個別に指導し勉強会への参加を促す。	ワークシートの内容を確認する。
5	5	・ 記事を整理する (P.54)	★①ーオについて 間違いを恐れず、積極的に書こうとしている。	★①について 既習事項を積極的に活用し、辞書などを用いながら常に工夫して書こうとしているか。	★①について 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる。	内容を聞いて文章が書けているか確認する。
		・ 単語テスト	★④ーア、ウについて 問題に50パーセント以上正解している。	★④について 問題に75パーセント以上正解している。	★④について 個別に指導し勉強会への参加を促す。	テストをチェックする。
6	6	・ 記事の調査	★①ーイについて ペアワークに積極的に参加し、自分の意見を述べようとしている。	★①について 常に積極的にペアワークに参加し、自分の意見を述べ、相手の意見を聞き、まとめようとしているか。	★①について 個別に興味のあることなどを聞き、書き出させる。	活動の様子を観察する。
7	7	・ 原稿の下書き	★①ーイ、オについて ペアワークに積極的に参加し、間違いを恐れず、積極的に書こうとしている。	★①について 既習事項を積極的に活用し、辞書などを用いながら常に工夫して書こうとしているか。	★①について 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる。	活動の様子を観察する。
			★②ーエについて 文のつながりを考えて書くことができる。	★②について 常に文のつながりや意味上の構成を考えて書くことができる。	★②について 書こうとする態度を評価し、個別に質問しながら書き出させる。	意見をまとめ、書けているか確認する。
8	8・9	・ 原稿の作成	★①ーオについて 間違いを恐れず、積極的に書こうとしている。	★①について 既習事項を積極的に活用し、辞書などを用いながら常に工夫して書こうとしているか。	★①について 個別に辞書の使い方を指導し、単語を書き出させる。	意見をまとめ、書けているか確認する。
			★①ーイについて ペアワークに積極的に参加している。	★①について ペアワークに常に積極的に参加しているか。	★①について 個別指導を行い、調べた内容について興味のあることを書き出させる。	活動の様子を観察する。

10	10	・発表	★①ーウについて 間違いを恐れずに自分の意見を発表しようとしている。	★①について 間違いを恐れずに自分の意見を正確に発表しようとしているか。	★①について 正確な文でなくても、単語だけでも話そうとする態度を評価し、コミュニケーションを促す。	活動の様子を観察する。
			★②ーアについて 聞き手に伝わるよう、工夫して話そうとしている。	★②について 常にスムーズに英語らしく話そうとし、分かりやすく伝えることができるか。	★②について 聞き取ることができた単語をスクリプトから見つけ出させる。	活動の様子を観察する。
			★①ーアについて 発表者の意見に関心をもって聞こうとしている。	★①について メモをとるなどして常に発表者の意見に関心をもって聞こうとしているか。	★①について 理解できないときに使う表現を伝え、発話できるよう促す。	活動の様子を観察する。
11	11	・発表	★①ーアについて 発表者の意見に関心をもって聞こうとしている。	★①について メモをとるなどして常に発表者の意見に関心をもって聞こうとしているか。	★①について 理解できないときに使う表現を伝え、発話できるよう促す。	活動の様子を観察する。
		・まとめ	★①ーイについて ペアワークに積極的に参加している。	★①について ペアワークに常に積極的に参加しているか。	★①について 個別指導を行い、わかった内容について書き出させる。	ワークシートをチェックする。

⑤ 本時の目標

○ある事象やそれについての自分の意見を聞き手に分かりやすく説明することができる。

(表現の能力 / 話すこと「適切な発話」)

○発表者の意見を聞いて、自分の意見を表現することができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度/聞くこと、「言語活動への取り組み」)

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度/話すこと、「コミュニケーションの継続」)

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評価・備考
1. Warm-up ・挨拶する ・英語で簡単な受け答えをする	・英語を話そうという雰囲気を作る ・自信を持って答えられる質問にする	
2. Introduction ・本時の活動を確認する	・簡単な英語でこれから行うことを指示する	

<p>3. Activities</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループに分かれ、ポスターセッション形式で記事を発表する 発表を聞いて、自分の意見を述べたり質問をしたりする 各グループで一番良かった発表を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞き、よかった点を評価する 分からない時には質問し、発表の内容をとらえるよう指示する 聞いた発表に関する質問や意見をメモするように指示する 規準を明確に示す 	<p>メモ (評価の観点)</p> <p>①ーウ ②ーア ①ーア</p> <p>コメントシート</p>
<p>4. Consolidations</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループで選ばれた発表を行う コメントシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の発表について評価する 	<p>コメントシート</p>

⑦ 反省と課題

(1) Authentic material の活用について

本学年の生徒は昨年度から大学留学生と交流を持ち、10月の校外学習で留学生と共に奈良班別活動を行うなどし、外国語を用いてコミュニケーションをとることの便利さや楽しさを知ることができている。また、少ない語彙や既習事項の中で伝えるコツを多少なりとも心得ている生徒もあり、彼らは短い文の方が伝わりやすく、聞き取りやすいことやジェスチャーや実物を見せるなどの視覚に頼ることも必要であることなどを知っている。これらのことを生徒は本物のコミュニケーション場面の中で学び取ってきたのである。今やどの学校でもALTとのTeam Teachingが行われ、英会話スクールに通う生徒も多くなったとは言え、その中でどれだけ生徒が主体的にコミュニケーションに取り組み、発信する側になっているだろうか。特にALTとのTTでは大勢対一人という状況の中で生徒とALTが話す時間をどれだけ確保できているだろうか。実際、私が行っているTTでは聞く活動が中心になっており、生徒のALTと話す活動を多く取り入れるなどの時間をほとんど確保できていないというのが現状である。教室にNative speakerがいるという折角の機会をもっと効率的に利用できれば生徒の英語で話そうとする意欲もさらに高まると考え、本単元では話す活動を中心にし、生徒側からALTらに向けて発信できるよう授業を試みた。生徒側からの発信を受けてALTが質問するとなると、生徒は聞かなければならないし話さなければならない。本物のコミュニケーション場面が生まれるのである。ALTとのTTの中で本物のコミュニケーション場面を生じさせるためにはALTからの働きかけだけでなく生徒側からの働きかけが必要である。今後 Authentic material の活用に関してさらに取り組み、生徒側からの働きかけを活発にするような授業を展開していく必要性を大いに感じた。



(2) 本単元を振り返って

本単元の第7時からUnit 5のOption課題として設定されていた「学校や地域での最近の出来事について書く」という題材を通して、身近なことをテーマに5W1Hの明確な記事を簡潔に書く活動に取り

組みはじめたが、まとまった英文を書かせる時にいつも感じるのが英作文力の不足である。第5時までの授業では節を成す従属接続詞の文法学習を中心にして反復演習をできるだけ多く取り入れた授業展開を試み、理解する様子が見られたが、原稿作成時にはどのような状況でそれらをどのように用いればいいのか迷う生徒が多く見られた。まとまった英文を書くという発展的な内容になると、生徒がそれぞれに持っている知識を頭の中にある引き出しからいくつかを選んで取り出さなければならない。しかし彼らは取り出すべき引き出しが分かっても、どう使えばいいのか分からないのである。学びのサイクルに置き換えて考えてみると、引き出しに片づけるのが習得サイクルであり、引き出しから取り出すことが探究サイクルということになる。この習得サイクルの時点で習った内容を使える状態で片づけていないために、探究サイクルの時点では単語としてしか出てこず、文を作るための要素として扱えないのではないかと考える。解決には引き出しの中に系統だったものを整理していけるような指導方法を工夫し、習得サイクルを活性させる必要があるだろう。

調査や発表活動についてはグループで協力して取り組む様子が伺えた。今年度になって何度もグループ学習を持ち、最初は個別学習になっていた生徒もお互いに教え合ったり、話し合ったりしながら学習を進めることができてきたように思う。特に発表の前時ではグループ内だけの学習だけではなく、グループ間で教え合ったり、アドバイスを申し合ったりし、ポスターに手直しを加えたり原稿を書き直したりするグループもあった。これからもグループ学習を積極的に取り入れ、お互いを高めあえる学習集団を築いていきたい。

(3) 反省と今後の課題

発表時には発表者にしっかり耳を傾け、内容を聞き取ってもらいたいと考えていたので発表内容のスク립トを用意するつもりはなかったが、研究発表会に向けて指導助言の先生方と事前の打ち合わせを持った際、発表者のスク립トを用意した方がよいとの助言をいただいた。当日は冊子にしたスク립トを用意し、生徒全員に持たせて発表を聞くようにし、分からない単語や文を目で確認できるようにしたのは非常に効果的であった。スク립トばかりを見て、発表者の方を見なくなるのではないかと懸念していたが、ポスターがあったおかげで発表者も'Look at this.'と言いながら注意を引きつけて発表することができたと、聞く側もしっかり前を見て、またスク립トで内容を確認しながら発表を聞くことができた。



お互いの発表を聞いて質問する、意見を述べるという点に関しては、後の協議会でも意見をいただいたが、私自身の指導が十分ではなかったためにあまり活発に行われなかった。質問がALTに対してのみだったり、ALTだけが質問したりするにとどまってしまったのは残念だったが、ALTが話す度にどんな意見やアドバイスをしているのか聞き取ろうとする意欲を感じ取ることはできた。教室にネイティブがいるだけで生徒の聞こうとする意欲が確実に高まる。また、質問されれば英語で話さなければならないという状況が生まれ、英語で話そうとする意欲も高まる。どの生徒も生き生きして発表したり、聞いたりしていたのは意欲の高まりがあったからである。その高まりに生徒から質問や意見を出せるエッセンスを指導者が落とせなかったことは反省の一言である。今後、生徒の意欲の高まりを見落とさず、必要な時に必要な指導をできるように心がけたい。

今後の課題としては先に述べたように、Authentic materialのさらなる活用と習得サイクルの時点で使える文法学習の指導方法の研究に取り組み、生徒の学びを豊かにしていきたい。

Writing an article!

Class Name _____
Your Group _____

◆Write your opinion in English!

I think we should bring mobile phone at school.
Because it is very useful and if we have accident, we can talk to our family.
So I think that.
But I think if we bring it, we must keep these rule.

- 1. We must do shut off in classes.
- 2. We mustn't use it in the school

These are my opinions.
Thank you.

15: 学校に携帯電話を持ってくるべきだと思います
なぜならケータイはとても便利ですし、もし怪しい人に会ったときに連絡しやすくなります。
だから学校に携帯電話を持ってくるべきだと思います。
しかし、授業中に携帯電話を使うのはよくありません。
1. 授業中は携帯電話を切るべきです。
2. 学校で携帯電話を使うべきではありません。
これは私の意見です。
ありがとうございます。

Writing an article!

Class Name _____
Your Group _____

◆Write your opinion in English!

Do you think we change black board into white board?
Agreement is 86.

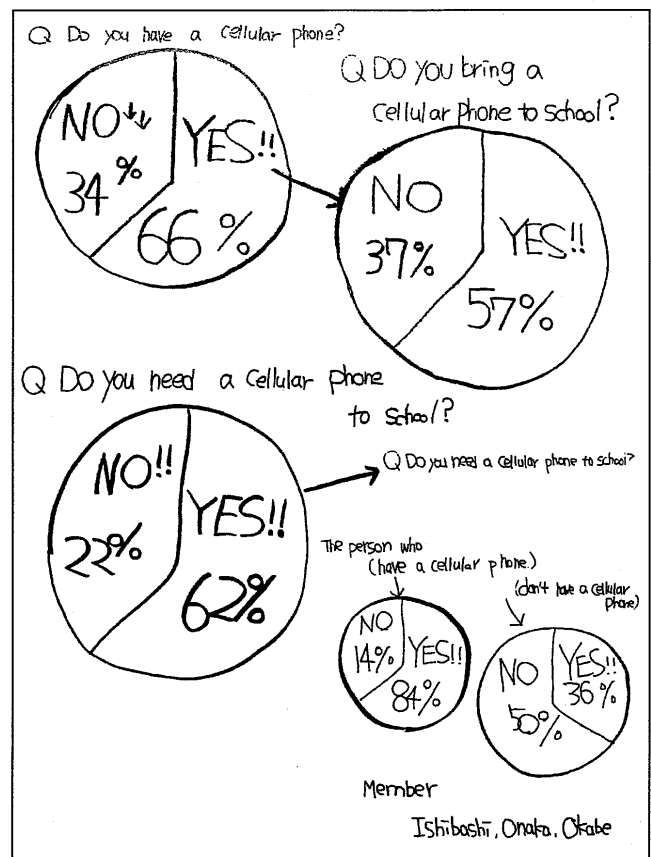
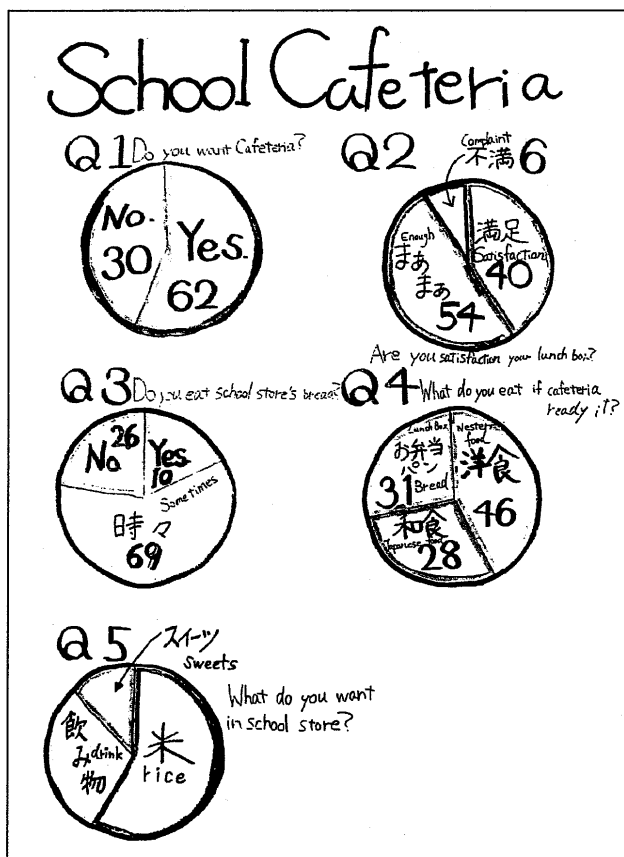
- 1. Powder.
- 2. Good.
- 3. Erase quickly.

Reverse is 19.

- 1. Not see.
- 2. Erase quickly.
- 3. A troublesome black board.

Do you know another teaching aid instead of the black board or white board?

- 1. Computer.
- 2. TV.
- 3. Big paper.



実践3 必修教科3年生

① 題 材 NEW HORIZON English Course 3 [Unit 5 Cell Phones-For or Against?]

② 題材について

Unit 5 では、中学生にとって身近な話題である携帯電話を取り上げ、電話の歴史、携帯電話の料金を巡っての親子の対話、「中学生は携帯電話をもつべきではない」という意見を巡るインターネット上での論議と展開し、話題に対しての自分なりの意見をもち、それを的確に表現する力や表現しようとする態度を養うことを目指している。

言語材料としては Starting out で現在分詞・過去分詞による後置修飾を学習する。パターン練習を繰り返し行い定着を図りたい。Dialog は間接疑問文を学習する。さまざまなパターンの間接疑問文に慣れることで、理解を深めさせたい。さらに Reading for communication では意見の内容や論点を正確に読み取らせ、さらに自分自身の意見を表現させたい。

授業では、さまざまな場面において英語に親しみ、初歩的な英語を用い「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を機能させて、できるだけたくさんの言語活動を取り入れていくことを目指している。この単元の言語材料である現在分詞・過去分詞による後置修飾や間接疑問文といった英語特有の表現は、生徒たちにとって感覚を掴むことがとても難しく感じるものであるため、効果的にCALLシステムを活用したいと考えた。生徒たちに多くの英語表現にあたらせ、飽きさせないような反復練習に取り組ませたい。そこから英語科の本年度の取り組みの重点である①CALL室の活用を取り上げ、「基礎・基本」を重点的に身につけさせる場面を設定し、「個性を拓く学び」に迫る。

③ 学習目標と評価規準

学 習 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞・過去分詞による後置修飾の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・間接疑問文の形・意味・用法を理解できる。 ・意見の内容や論点を正確に読み取り、自分自身の意見を書くことができる。 		
規 準	①コミュニケーションへの意欲・関心・態度	②表現の能力	③理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
聞くこと	(言語活動への取り組み)		(正確な聞き取り)	(言語についての知識)
	ア. 興味や関心を持って教師や生徒の英語を聞こうとしている		ア. 後置修飾を用いた文を正しく聞き取ることができる	
	(コミュニケーションの継続)		(適切な聞き取り)	(文化についての理解)
話すこと	(言語活動への取り組み)	(正確な発話)		(言語についての知識)
		ア. 自分自身の意見を相手に正しく伝わるように話すことができる		
	(コミュニケーションの継続)	(適切な発話)		(文化についての知識)
読むこと	(言語活動への取り組み)	(正確な音読)	(正確な読み取り)	(言語についての知識)
			イ. Unit 5 の内容について理解することができる	ア. 後置修飾を用いた文の構造・意味について知識がある イ. 間接疑問文の構造・意味について知識がある

	(コミュニケーションの継続)	(適切な音読)	(適切な読み取り)	(文化についての知識)
	(言語活動への取り組み)	(正確な筆記)		(言語についての知識)
	イ. 自分の考えや意見を英語で書こうとしている	イ. 後置修飾を用いた文を正しく書くことができる ウ. 間接疑問文を正しく書くことができる		ウ. Unit 5 に出てくる語句の意味が分かり、そのいくつかについて正しく書くことができる
	(コミュニケーションの継続)	(正確な筆記)		(文化についての知識)
		エ. 自分自身の意見を英語で書くことができる		

④ 学習計画（単元構成表・指導と評価の計画）全 6 時間

学習過程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	評価規準
現在分詞・過去分詞による後置修飾 (1 時間)	形・意味・用法を理解し、表現する	写真を見せて、それが誰に撮影されたのか説明する 写真を見せて、その中で動作を行っている人物について説明する 現在分詞・過去分詞を使った名詞の修飾について理解させる言語活動を行い、形・意味・用法を練習させる 〔習得〕	①ーア ③ーア
間接疑問文 (1 時間)	形・意味・用法を理解する	写真を見せて、さまざまな間接疑問文の形を導入する 間接疑問文の形・意味・用法を理解させる 言語活動を行い、表現の形・意味・用法を練習させる 〔習得〕	①ーア ②ーウ
意見の読み取り (1 時間)	携帯電話を巡る個々の意見の内容や論点を正確に読み取る	個々の意見の内容や論点を正確に読み取らせる 〔習得〕	③ーイ
自己表現 (1 時間)	携帯電話について考え、自分自身の意見を書く	個々の意見から、自分自身の意見を表現させる 〔探究〕	①ーイ ②ーイ ②ーウ
練習 (1 時間)	現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文の反復練習	CALL システムを使って練習問題に取り組みせ、現在分詞・過去分詞による後置修飾を用いたさまざまな表現を理解させる 意見交換でよく使われる表現について復習させるCALL システムを使って練習問題に取り組みせ、間接疑問文を用いたさまざまな表現を理解させる 〔習得〕	①ーア ④ーウ ④ーア ④ーイ
文法のまとめと意見交換 (1 時間)	現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文のまとめと意見交換	練習問題に取り組みせ、現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文の復習をさせる 携帯電話についての自分自身の意見を発表させ、意見交換を行わせる 〔習得〕〔探究〕	④ーア ④ーイ ②ーア

⑤ 本時の目標 (評価規準)

現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文の形・意味・用法を理解する。

学 習 の 目 標		・現在分詞・過去分詞による後置修飾の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ・間接疑問文の形・意味・用法を理解できる。		
規 準	①コミュニケーションへの意欲・関心・態度	②表現の能力	③理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
聞くこと	(言語活動への取り組み)		(正確な聞き取り)	(言語についての知識)
	ア. 興味や関心を持って教師や生徒の英語を聞こうとしている			
	(コミュニケーションの継続)		(適切な聞き取り)	(文化についての理解)
話すこと	(言語活動への取り組み)	(正確な発話)		(言語についての知識)
	(コミュニケーションの継続)	(適切な発話)		(文化についての知識)
読むこと	(言語活動への取り組み)	(正確な音読)	(正確な読み取り)	(言語についての知識)
				ア. 後置修飾を用いた文の構造・意味について知識がある イ. 間接疑問文の構造・意味について知識がある
	(コミュニケーションの継続)	(適切な音読)	(適切な読み取り)	(文化についての知識)
書くこと	(言語活動への取り組み)	(正確な筆記)		(言語についての知識)
				ウ. Unit 5 に出てくる語句の意味が分かり、そのいくつかについて正しく書くことができる
	(コミュニケーションの継続)	(適切な筆記)		(文化についての知識)

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評価・備考
Warm-up あいさつをする 簡単な質問に答える	英語で学習する雰囲気を作る 平易な表現を用いて質問をする	①ーア ④ーウ
Review 単語テストをする 既習の表現を使ってリスニングテストをする	CALL システムの使い方について注意を促す 既習の表現を復習させる	

現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文の形・意味・用法を復習する		
Drill 現在分詞・過去分詞による後置修飾・間接疑問文の反復練習	CALLシステムを使ってたくさんの問 題に取り組ませる	④ーア ④ーイ
Consolidation 自分の弱点をチェックする評価カードに記入する	評価させる	

⑦ 結果と考察

英語学習において Authentic な教材の活用は、学習者にさまざまな効果をもたらすと考えている。実際のコミュニケーション場面や英語を使う場面を見たり聞いたりすることで、興味を持たせることができる。真似をして英語を使ってみたいと思わせることができる。教科書の本文やリスニング教材の英語よりもより実際に近い英語をたくさん聞かせることで英語に対する恐れを持たなくなる、などである。またCALLシステムを活用した授業では、さまざまな機器を活用してさまざまな教材を提示することが可能になるため、学習者にとって効率よく学習に取り組むことができると思われる。

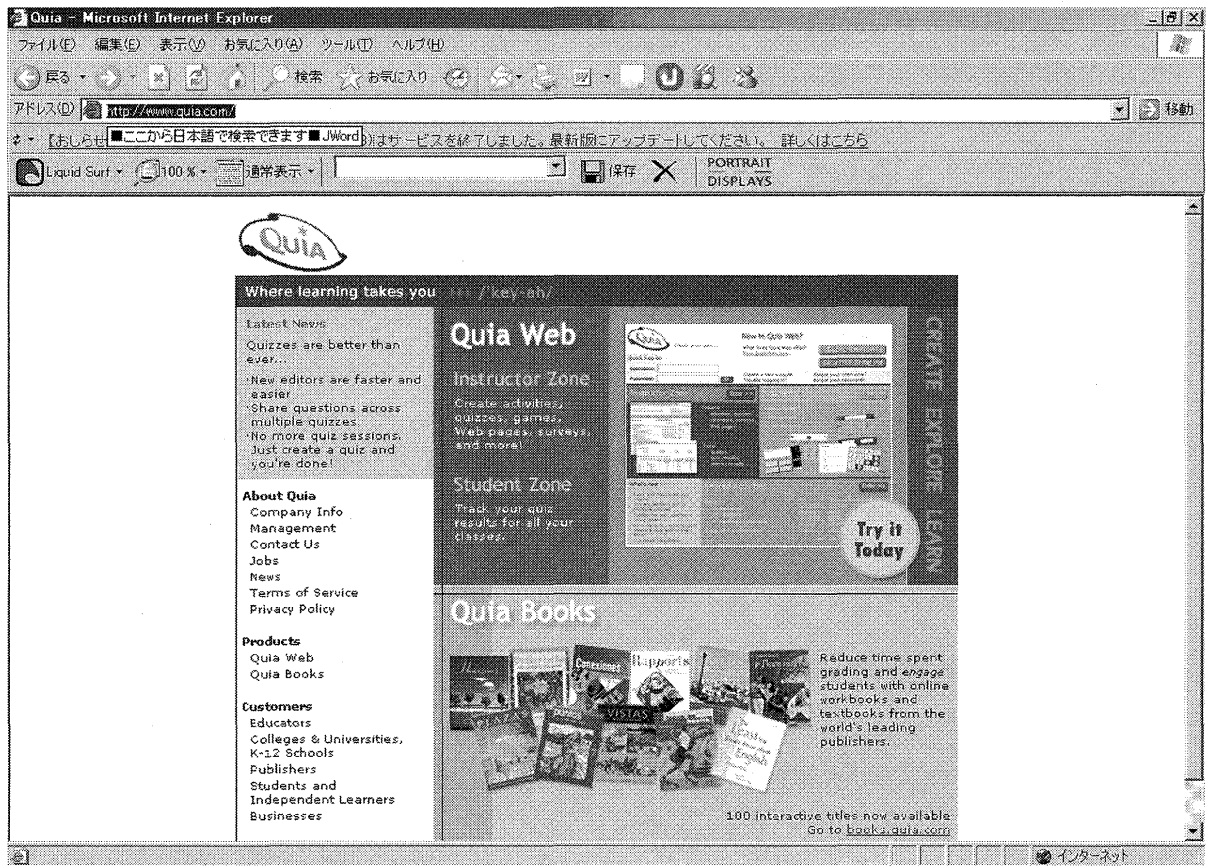
今回はCALLシステムを活用し、特に「基礎・基本」を重点的に身につけさせるため、現在分詞、過去分詞を使った後置修飾の意味、用法を反復練習させるドリル学習を中心に授業展開を行った。コンピュータを使っのドリル学習は、生徒が個々のペースで学習を進めることができるため、「個に応じた」学習ができたと思われる。Review の段階のリスニングにおいても教材を一斉に教室に放送するのではなく、システムを活用し、生徒個人で教材を聞くことができるようにしたため、学力差に合わせての対応ができた。(生徒個人レベルでリスニング教材の再生、繰り返し、音声のスピードの調節などが可能) 英単語を「書く」のではなく、キーボードを使って入力を行うため、単語のつづりにおいても敏感になり、初めは「つづりがわかりにくくなってきた」という否定的な声が多かったが、入力に慣れてくると、より意識を高めてつづりをおぼえるといった姿勢も見られるようになってきた。

このように個人レベルでの効果が見られたものの、工夫や改善が必要な点も見られた。CALLシステムを一斉授業の中でどう活用するのが大きなポイントである。コンピュータがあれば生徒個人の学習を進めることが可能である。授業でコミュニケーションを中心とした活動を考える場合、どのような段階で、どのように位置づけ、どのように扱い、どのような活動を授業の中でさせるか今後課題として取り組んでいきたい。



【資料】

授業で活用しているウェブサイトのアドレス 《quia.com》 <http://www.quia.com/>



単語テスト

Unit 5 単語テスト

1. 安い (1 point)
2. 電話 (1 point)
3. 本当の、真実の (1 point)
4. 役に立つ (1 point)
5. 緊急事態 (1 point)
6. 公衆のための (1 point)
7. …のつもりで言う、…をさして言う (1 point)
8. …を引き起こす (1 point)
9. 高価な (1 point)
10. つるす、かける (1 point)

Preview Results

ページが表示されました

http://www.quia.com - Quia - Quiz Results Preview - Microsoft Internet Explorer

Unit 5 単語テスト

Thank you. Your responses have been computer graded. Here are your results.

Score Summary			
(Click on question number to jump to question.)		points earned	points possible
Question 1	correct	1	1
Question 2	correct	1	1
Question 3	correct	1	1
Question 4	correct	1	1
Question 5	correct	1	1
Question 6	correct	1	1
Question 7	correct	1	1
Question 8	correct	1	1
Question 9	correct	1	1
Question 10	correct	1	1
Score: (100%)		10	10

1. 安い

The following answer is acceptable:
cheap

Your response:
cheap

Points earned: 1 out of 1

2. 電話

The following answer is acceptable:
telephone

Your response:
telephone

ページが表示されました

ドリル

Quia - Drill - Microsoft Internet Explorer

ファイル 編集 表示 気に入る ツール ヘルプ

戻る 進む 検索 気に入る

アドレス http://www.quia.com/cb/179722.html

Web Search Search Results Bookmarks Pop-ups My Favorites

Home Instructor Zone Student Zone Shared Activities FAQ Log Out

Challenge Board

Create your own activities [Email a friend](#)

Drill

☆ 日本語に合うようにひらがなで英文を完成させましょう。
☆ 空欄にすべて正しい単語を埋めましょう。

[Tools](#)
Help
Copy this to my account
Add this to my class page
Find other activities
Start over

[Play HTML version](#)

★ 300

Koji

現在外語を学んでいる人	過去外語を学んだ人	Discussionの時によく使われる単語	文の中で適切な単語を完成させる	Trivia
100	100	100	100	100
200	200	200	200	200
300	300	★	300	300
400	400	400	400	400
500	500	500	500	500

[Start Over](#)

Copyright © 1998-2006 Quia Corporation. All rights reserved.
This activity was created by a Quia Web subscriber. To learn how to make your own, visit here: [click here](#).

インターネット